

八幡さんのかずえ姫(芦原)

芦原の小字で、八幡さんと呼ばれる小高い山がある。

むかし、そのあたりに、かずえ姫といいたいへん美しい娘がいたが、かわいそうに生れながらひとときもまものがい
えなかつた。その娘の父親は、そういつごとくもだけにぶびんでならず、「かずえ姫 かずえ姫」

といつてかわいがっていたが、その不幸な娘は、ふとした病気にかかり、ついになくなってしまった。

父親のなげきは、はたのみるめも気のとくであつたが、それからまもなくその父親は、正覚寺(浄土寺)へ、鐘をつ
くつて寄進した。

そして鐘供養のときに、集つてきた村の人たちに、涙ながらにその父親は、

「この鐘の音を聞いたら、かずえ姫がみんなにものをいっている声だと思つておくれ。」

といつたので、それを聞いたみんなは、親の深いなまけに泣かされたところ。

以前の八幡さんといつてゐるには、彼岸さへくらやもみじの木が、たくさん植つていて、きれいな

かずえ姫のすがたがしのばれる。かつしつ場所であつたところである。

